

様式第1号

会 議 録

会議の名称		令和5年度第1回自転車のまちつくば推進委員会		
開催日時		令和5年(2023年)8月2日 開会 13:00 閉会 17:00		
開催場所		筑波山ゲートパーク 2階会議室		
事務局(担当課)		都市計画部総合交通政策課サイクルコミュニティ推進室		
出席者	委員	渡委員長、松橋副委員長、井上委員、古平委員、藤澤委員、藤田委員、永田委員、松島委員、石原委員、中根代理、岡田代理、大里委員、富田委員、伊藤委員		
	その他	—		
	事務局	根本次長、細谷課長、高橋室長、河野主任、浜田主事、飯泉主事		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	3名
非公開の場合はその理由				
議題		(1) 令和5年度自転車のまちつくば推進委員会開催時期及び(仮称)つくば市自転車活用推進計画策定スケジュールについて (2) つくば市自転車施策の方針と現状の施策について		
会議録署名人		—	確定年月日	令和 年 月 日
会議次第	1 開会			
	2 委員長挨拶			
議	3 議事			
	(1) 令和5年度自転車のまちつくば推進委員会開催時期及び(仮称)つくば市自転車活用推進計画策定スケジュールについて			
	(2) つくば市自転車施策の方針と現状の施策について			
	4 その他			
	5 閉会			
2 委員長挨拶		<p>昨年度から立場が変わり、現在はUR都市機構東日本都市再生本部事業企画部で、新しいアクティビティ、新しいプレイスを作る施設の箱作りをしている。今回委員会で検討するようなアクティビティを、人が本当に利用したくなる場にしていく仕事である。</p> <p>それでは、まず資料1策定スケジュールを見ていただきたい。では、事務局の方、説明願う。</p>		

様式第1号

3 議事

<審議内容>○：委員 ●：事務局

- ・（1）令和5年度自転車のまちつくば推進委員会開催時期及び（仮称）つくば市自転車活用推進計画策定スケジュールについて

●事務局：令和5年度自転車のまちつくば推進委員会開催時期及び（仮称）つくば市自転車活用推進計画策定スケジュールについて資料1にて説明

○委員長：ここで質問等をいただきたい。先ほど説明された資料1、計画策定について質問はあるか。では私から、筑波山ゲートパークのオープンやそれに関わるイベントについての説明をいただけるか。

●事務局：正式には今後つくば市議会の承認を経て決定するもので、11月3日にオープンする予定としている。昨年度委員の皆様のご都合があった方にご参加いただいた『PEDAL DAY GO～Mt. TSUKUBA～』という自転車イベントを、施設の開所に合わせて開催する予定となっている。

○委員長：質問はあるか。ないようなので、ここで暫時休憩とする。

<暫時休憩>

○委員長：続いて、つくば市自転車施策の方針と現状の施策について、事務局より説明願う。

<審議内容>○：委員 ●：事務局

- ・（2）つくば市自転車施策の方針と現状の施策について

●事務局：（2）つくば市自転車施策の方針と現状の施策について、資料2-1および資料2-2にて説明

○委員長：それでは具体的な意見を順番に一人ずつ伺いたい。

○委員：先ほど説明いただいた計画で、疑問に感じた2つのポイントについて質問する。まず、シャワー利用者が洗剤やシャンプー等いろいろな利用されることに対しても細かくルールがあったほうがいい。ま

た、シャワーの利用時間についてだが、秋口になると日が短くなり、相当混みあうことが予想されるため、利用時間の制限を考える必要があるのではないか。

併せてピロティに常設されている自転車ラックについても、鍵が設置されているわけではないので、自己責任での管理が一番大切だと思うが、防犯カメラを設置したほうがいいと思う。

- 事務局：まず、シャワーの利用については運用を決めきれていないところがある。土日や秋口は利用者が集中して、一人が利用できる時間が少なくなることは予想しており、開所までに最適な運用方法を探したい。オープンしてからも改善点が出てくると思うので、我々としても委員の皆様にも利用いただき、意見をいただきたい。

自転車ラックの防犯に対する扱いについては、基本的には御自身で鍵を持ってきていただくことを想定している。防犯カメラ自体は施設の中に設置を予定しているが、ピロティについては設置の予定はなかった。当面は御自身のカギで対応していただき、必要に応じて防犯カメラの増設も検討していく。

- 委員： シャワー利用は500円と説明があったが、他の施設、例えば休憩スペースなどを使うときは無料を想定しているのか。

- 事務局：シャワー室以外の利用料金については、会議室の利用は有料の予定だが、休憩室などは無料の予定。この施設の一番の役割は人々の誘導である。本施設を訪れた人が施設周辺での飲食や物産購入してもらうことを想定しているので、この施設を使って市としてはお金もうけすることは考えていない。一方でシャワーは金額設定しないと荒れた場所になってしまう。必要に応じて料金を設定していく所存である。

- 委員： やはり防犯についてもう少し検討いただければと思う。考え過ぎかもしれないが、今世間ではLGBTが騒がれており、男性の方が例えば女性のシャワー室で入るトラブル等もないとは言い切れない。そのような点も踏まえて検討いただきたい。

- 委員： 拠点の整備とサイクリングツアーという点で拠点については、3年ぐらい前にりんりんポート土浦が自転車の拠点として整備された

が、例えばオープン時間など、開所当初からいろいろ改善をされた。これから筑波山ゲートパークが開所するにあたって、徐々に利用者の意見というかニーズに合わせて変更していくほうが良いと思う。また、今日来たとき、アクセスが難しいと感じた。車で来られる方、りんりんロードで来られる方がスムーズにここに寄っていただけるような案内を整備していただきたい。

サイクリングツアーについては年数回程度、この拠点の知名度を上げるためにも企画する必要がある。自転車以外のイベント等を誘致して開催してもいいと思う。

教室を改修した施設であり、クローズな部屋になっているので、防犯面でなかなか目が行き届かないことを懸念している。また、本施設はジオパークとBMXと普通の自転車と複合的になっているのでイメージが湧きにくいと感じる。

- 事務局：りんりんポート土浦のように、我々も改善して皆さんが満足できる施設を作っていきたい。今回アクセスが難しかった方もいるが、今11月3日オープンまでに車向けの看板を周辺道路沿いにつけるほか、りんりんロードの出入り口にも看板をつけたいと考えている。ツアー等のイベントによる知名度向上というのは非常に重要なものだと考えており、既存の団体にも御協力いただくことになると思う。

安全面でも出入口が少なく、ずっと中に滞留してしまうような人が出てくることもあるので防犯カメラ設置も検討して行きたい。

最後に、ジオパークと自転車の複合施設ということで何を目的とした施設か不透明という指摘があったが、逆にどういう化学現象が起きるかわからないとも言える。ジオサイクリングツアーなども担当部署では検討している。全国で唯一無二の何かができるような可能性を秘めている。

- 委員： 一般的な話として、国の自転車活用推進計画では、令和7年度までに自転車ネットワークを各自治体、400市区町村で策定する目標を立てている。それにあたって国の方でも支援しているという状況である。スケジュール説明にもあったが、計画策定に向けて、我々もできる限りのところは支援していきたい。資料2-1を見ると、自転車レーン整備事業は環境、健康、地域振興、安全のすべてに当てはまるとしているが、自転車レーン整備を計画の中でどのように位

置づけていくのが大事だと思う。以前、つくばに短期滞在した際、市内の研究所まで毎日通っていたが、5～60キロで車が走る車道を走るのは安全面に不安を覚えた。りんりんロードだけを通って霞ヶ浦側に通過していってしまうと、地域振興にはつながらない。自転車レーン整備をどう位置づけるかが課題。先進的な自治体では何年までに何キロ整備すると明記している。参考資料7中にある、自転車レーン整備と市内道路の自転車専用通行対策（自転車レーンや矢羽の整備）を今後具体化していく必要がある。

主に車を利用している市民の方々に、自転車が安全に走ることのできる空間について理解してもらうのは難しいと思う。小学生・中学生・高校生が自転車を安全に利用できる環境になっているのが重要だと考える。

自転車拠点についていえば、施設が整備されたとして、そこから市内の方に立ち寄ってもらえるような、りんりんロード以外の自転車レーン整備についてしっかり実施しなければいけない。

地域振興の話でいうと、千葉県にある道の駅の保田小学校は学校の跡地利用が好例である。来訪者が食事をして、買い物して温泉入ることで、地域活性化という面ではいろいろ付加価値を生んでいる。自転車利用される方が、つくば市内を通過していってしまうだけの拠点にならないよう、もう一工夫あってもいいと感じた。

- 事務局：冒頭の資料1で説明したとおり、自転車活用推進計画の中に、自転車ネットワーク計画を位置づける予定である。自転車ネットワークにおける自転車レーン整備が地域振興に結びつけられるかが課題であるが、市としては人口が衰退傾向にある周辺市街地に人やお金を誘導しようという方針を大々的に掲げていて、その方針に沿って自転車施策も実施している。ネットワーク計画も周辺市街地に結びつけようと考えている。以上のように地域振興を目指していきたい。その計画にりんりんロードの活用も絡めていく。

千葉の保田小学校のように、この施設を整備するときに宿泊施設を整備する話も持ち上がったが、近隣に温泉や宿泊施設があり、飲食についてもできるだけ地域のお店で食べて欲しいので、現時点ではこの施設に人を集めることを一番に考えている。集めた人を周辺地域にどう誘導していくかが今後の課題。地域の特性もあるので、千葉県の事例とは別のアプローチをしていくことになると思う。

○委員： 私はつくば市民で自転車に乗っているが、筑波山ゲートパークをあまり知らなかった。恐らく、一緒に自転車に乗っている友達も筑波山ゲートパークのことはちっとも知らないと思う。まず宣伝しなければいけない。宣伝して人を集める。ポスターを自転車店に貼るなど、11月3日のオープン前にはみんなに知ってもらえるようにしていただきたい。その上で自転車のまちつくばとして、つくば市を自転車のまちと宣伝する際は、世界大会でもやっていただいて、宇都宮市に負けないぐらい宣伝していただければこの設備も大変喜ばれると思うし、りんりんロードも日本中に広がると思う。

●事務局： 周知が足りていないというのは、まさに我々の力不足である。行政的な都合として、市議会で承認されるまではこの施設の開所時期は決まらない。現段階での11月3日はあくまでもオープン予定である。施設の設置が議会で承認されてから一気にアピールしていきたい。口コミで広げていただくことも非常にありがたいので、委員の皆様にも是非、広めていただければと思う。施設を宣伝する効果的な手段の一つとしてBMX国際大会の開催があると思うが、まずは日本選手権を開くなど、実績を積んでその先の国際大会につなげられるようにしたい。

○委員： 私もサイクリストとしてこの辺をよく走るの、その観点から1点質問させていただければと思う。つくば市として筑波山地域の支援をするのは良いことだと思う。実際、車に自転車を積んだり、つくばエクスプレスや常磐線で輸送したりして、不動峠や筑波山に自転車を乗りに来る方が多い。車で不動峠に登りに来る人は筑波総合体育館駐車場か平沢官衙駐車場に停められるのが多い。特に筑波総合体育館駐車場は24時間使えるトイレや自販機があるため、駐車する人が多い。その際、体育館の本来の利用者が駐車できないということが、行楽シーズンとか、陽気がいい時には起こっている。筑波総合体育館に車を停めるサイクリストが筑波山ゲートパークの駐車場を利用するインセンティブがあるような開放の仕方を検討していただきたい。そうなれば、それぞれの場所がそれぞれ使いやすい環境になるはずだ。駐車場とかトイレの開放時間はどう考えているのか。

●事務局： 我々が拠点を整備した当初の目的として、筑波総合体育館や平沢官

街駐車を本来の施設利用者が使えない問題を解決することがある。そのため、筑波山ゲートパークの駐車場は24時間オープンを予定している。屋外トイレについては、配管の関係からすぐには使えないことが分かったため、整備しなおすように調整中である。それまでは仮設のトイレを設置し、サイクリストのニーズに応えたい。自販機についても、ピロティーに24時間使える形で設置する予定。筑波山ゲートパークの駐車場は広く使えるので、口コミで利用が広がると思う。当然、口コミだけでなく広報もしていく。

○委員： りんりんロードを振興している立場として、隣接した拠点を整備していただいて大変うれしく思う。本施設のターゲット層は車で来る人が大半だと思う。あとは自転車でりんりんロードから立ち寄る人の2者だが、それぞれのターゲットで利用方法が大きく異なってくる。車で来る人は筑波山ゲートパークをスタートして戻ってくる。帰りにシャワーを浴びるかもしれない。一方で立ち寄る人はトイレや飲み物休憩での利用で、シャワーは使わないだろう。それぞれのターゲットに合ったサービスを考えていくとターゲットごとにどういう利用方法があるか、サイクリストにも助言をもらいつつ運営していければと思う。この拠点ができるということは、つくば霞ヶ浦りんりんロードにおいてもメリットがたくさんある。りんりんポート土浦と並び今後2つのスタート地点となる。つくば霞ヶ浦りんりんロード活性の非常に大きなステップになって来ると思うので、県もこの施設の利用が増えるよう尽力する。

●事務局：こちらの施設はジオパークという、霞ヶ浦とか筑波山の地域資源を地学的な観点から未来に引き継いでいく博物館を実は隣に整備している。こちらも同時にオープン予定。そういったニーズも含めて考えていきたい。

○委員代理：健康のために自転車を乗る人が昨今多い中で、一方で交通事故等も結構多くなっていると感じる。高齢者が結構わがままな運転をしていたりして危ない。今日の資料で高齢者の電動アシスト自転車補助事業というのがあった。これは安全講習を受けることが条件だと聞いている。
また、高齢者に限らず、若い世代への安全教育という視点も計画に盛り込むべきだと思う。中学生の自転車運転の未熟さを感じ

ることが多い。

●事務局：中学生だけではなくて小中学生向けの自転車講習を実施していることは資料2-1にて示したとおりである。実際これまでの委員会でも、小中学生含む子ども向けの自転車安全対策が必要という意見いただいている。つくば市議会でも、小中学生の運転が荒いという質問は定期的に出てくる。そこで、次期委員には教育局の職員にも入ってもらうことを想定しており、市長からも了解を得ている。市としても教育局の責任者に入ってもらうことで、実行力のある施策を展開できるよう計画に落とし込んでいきたい。

○委員代理：ジオパーク拠点の施設は経済部が管理している。2016年に認定された筑波山地域ジオパークは6市で構成されていて、その拠点という意味合いである。あくまで6市の筑波山地域の拠点施設ということになっている。11月3日オープン予定で、施設の1階が展示施設、2階が事務室と多目的室ということになっている。都市計画部と経済部で調整しながらあるいは共有しながらようやくオープンすることになった。ジオパークは貴重な地質と地質、地質や地形を保全して、未来を考えて活用する場所であり少し地味なため、イベント等を一緒に行うことで相乗効果及び利用促進につなげていきたい。

●事務局：当施設はつくば市全体を盛り上げるものであり、いろいろな部署と協力していく所存である。

○委員：本施設は11月3日オープン予定しており、開所までの3か月間で課題を一つ一つしっかり整理していきたい。皆さんの意見や要望も整理しながら進めていく。トイレは当初は仮設になると思うが、来年度以降から設置していく予定。(仮称)つくば市自転車活用推進計画についても、本当は今年度中に策定したかったが、様々な課題があり、来年度にかけての策定となった。

○委員：自転車レーンは並木中等教育学校の前にあるほか、ほんの一部しか整備できていない。あったとしても矢羽根だけで、怖い思いをした人も多いと思う。つくば駅周辺の自転車レーンは道路の幅員が9mのうち路側の1.5メートルを使って自転車レーンを整備した。上述

のような場所は市内では限られる。どのようなところで自転車レーン設置を想定しているのか。

●事務局：2年前から自転車ネットワーク計画に基づく自転車レーンの整備については説明してきたが、当時の方針は本当に危険なところ以外ではできるだけ少ない整備でネットワークを構成していく考えだった。国の方針も変わって自転車専用通行帯設置を前面に押し出している。市長が先日パリ出張した際に、自転車レーンの必要性について考えていた。一方で物理的に付けられない場所もあることも承知している。今ある道路に自転車レーンを作るとなると、既存の車線を削って整備する場所も出てくる。予算は限られているが、自転車レーンを設置しないと危険な場所については整備していく必要があると感じている。今後、委員の皆様の意見をいただいで決めていきたい。具体的な場所についてはまだ想定していない。

○委員：この推進計画の環境の部分について、自転車の価値を拡大することは今地球規模のCO2削減に非常に有効な施策になると感じ、実施の必要性を感じている。今後、多くの人を自転車活用に誘導する方法を議論し、本計画に落とし込んでいく流れになるだろう。併せて、市民のニーズはアンケートにて回収する予定か。

●事務局：自転車がCO2削減に有効なのは周知の事実である。先日、自転車メーカーと話した際も、市と事業を進めるにあたって環境貢献に寄与したいと考えており、つくば市が2年前に『ゼロカーボンシティ宣言』をしたことがつくば市と連携する魅力と言っていた。一方、市民のニーズについては、2年前には市民アンケートを何らかの形で実施してフィードバックすることを想定したが、現時点ではまだそこまで詰め切れていない。資料1の通り作成支援業務委託をコンサル会社に委託するので、効果的なやり方をコンサル会社と進めていくことになる。また、庁内の環境政策課などアンケートを多く活用している部署にも助言を求めていく所存である。

○副委員長：本拠点を作った後、多くの人に使ってもらうことが非常に大事だと思う。本日の拠点見学でも、自転車が見える場所で休憩したい、日影があったほうがいいという意見があった。様々な工夫が

できると思う。民間でできる部分は可能な限り委託してしまうのがいい。例えば、シャワーのセキュリティについて、デジタル技術を駆使して怪しい動きをしている人を検出するなど、少ない人数で運営できる知恵をどんどん実験的に試していくべきだ。拠点に人々を呼ぶ上でスピード感が大事になってくると思う。民間の目線で見てもっと本拠点が使われるような運営を目指すうえで、拠点に様々なものを整備するだけでなく、周辺整備をしていかなければ、作った物が負債になってしまう。

拠点到案内看板を置くだけでなく、出入口から作り変えたほうがいいのではないか。この拠点到北側から入ろうと思ったが入れず、南側まで回り込むことになった。施設に来た人に周辺地域を散策・飲食して欲しいという思いや、筑波交流センター等との繋がりを考えた際、出入口を作り変えることのメリットはあると感じる。りんりんロードから呼び込む際、やはり看板だけでは厳しいと思われる。道の駅を整理するようつもりですごくわかりやすい入口を作らないと、この拠点到も広く伝わらず、活用されない感じがした。周辺道路は割と狭い道のできるので、誰にでも来やすいと思わせる広い道に作り変える必要がある。

私が参加している環境についての市民会議では、「2050年にゼロカーボンで住みよいつくばをみんなで考えよう」というアンケートを行っている。アンケートの中では、自転車とか徒歩とかバスを使って、車を使わなくても安全に暮らせるまちにして欲しいという意見が多い。先ほど、自転車レーンを作るには十分な道幅がないと話があったが、車を一方通行にしても自転車レーンを作るべきという意見もある。一方通行にすることでスペースを確保することは、私の住んでいる周辺でも実例がある。これは地域の人との話し合いによって、どちらが良いのか考えた結果である。

あと、自転車利用の多くは高校生・中学生の通学であり、朝晩西大通りで通学の学生がたくさん自転車で走っている。そういった自転車が使われている場所の自転車走行空間整備は、日常生活にとってもすごく大事だと思う。会議は市民の人口の縮図にしたほうがいいと考えるので、自動車を利用する大多数の人と、普段の生活で車を運転せず、自転車のみ利用する人との意見が異なるとき、その意見を尊重した方が住みよいような社会になると思う。

●事務局：拠点整備にあたって地元住民と何度もディスカッションを行い、地元住民の施設への期待を感じている。筑波山ゲートパークが北条地域の最後の起爆剤だと考える声も聞いている。予算が限られていて難しい部分はあると思うが、この施設が負債にならないように、民間の知見やデジタル技術等をうまく取り入れて、工夫していきたい。ここへのアクセスについては、実際我々の方にバスを通したいという話もあったが、今すぐにはできない。つくバスの全体的な見直しの中で組み込めるかもしれないが、公共交通のアクセスを考える必要性は認識している。車や自転車で来たときに分かりづらいという話もあったが、看板だけでなく、自転車向けには矢羽根をつけてりんりんロードからのアクセス向上を図っていきたい。また、筑波山ゲートパーク南側の道路の拡幅工事も現在計画しているところである。出入口を移すことは今の段階では難しいが、複合的に人が来やすい場所にしていきたい。加えて、環境の情報についても、様々な知見をお持ちであれば、庁内で共有し政策に展開していきたい。環境負荷の低減は本計画の前提になると思うので、情報は必ずキャッチするようにして、市としての政策・方向性に矛盾が生じないようにしていきたい。

○委員長：事業を環境・健康・観光・安全に分けていたが、完全に分けて考えるのは適切ではないと思う。例えば環境の面では、CO2の削減だけでなく、本質として我々がいかにここで生きていくかに目を向けなければならない。加えて、環境の捉え方として、ここに育つ子どもたちが、このまちを好きになるきっかけになるような地域振興にも関わる環境整備をしていくべきである。これは単なる計画ではなく、使う人の精神まで落とし込んだ発想を行政は配慮する必要がある。

元来、学校は子どもに一番良い景色を見せたいと思って作っているはずである。この拠点は廃校を改修していることから、学校の立地を活かして豊かな景色を見せ、この地域を好きな子どもを増やし、そうした輪が広がることで人々の心が豊かになり、環境と地域振興・健康が同時に達成されるのではないか。

それともう一つ、安全について、矢羽根や道路標示など、車へのメッセージが重要になると思った。走っているときに路側帯にヘルメットをかぶった自転車乗りや矢羽根があれば車のスピード抑制に

つながるため、可視化された自転車道路は効果があると思う。ただ既存の枠組みに落とし込むのではなく、日本に問いかけるようなものを作ってあげればいい。この施設はもともと学校なので、展望台などを設置するなどして、屋上に人が滞留できるようにするべき。物を設置するのではなく、利用をデザインしていく。

その中で、シャワートイレがないことが気になった。それから二階は男子トイレに2つ、女子トイレにはない。これではQOLが下がる。この点を改善すべきである。

●事務局：筑波山ゲートパークはそれ自体が自転車拠点ではなく、全体で考えれば、観光拠点である。観光拠点のトイレが汚いとなればリピーターを増やすことが出来ないと観光事業関係者から聞いている。こうしたことがトイレを作り直す前提としてあげられる。施設のオープンまでに対応できる話ではないが、今後考えたいと思う。

○委員長：本日、この拠点に来るとき、私もグーグルマップのナビ機能で北側に案内された。きちんと南側に案内できるように設定できないのか。

○副委員長：事務所の位置が北側に設置されているからではないか。施設のポイントを南側の入り口に設定すればいいのではないか。

●事務局：今後調べさせていただく。

○委員長：その他意見はあるか。

○副委員長：バスでのアクセスについての話が先ほどあったが、私はいらなと思う。つくば交流センターから徒歩で10分ほどだった。交流センターにレンタサイクルがあれば、そこから自転車で筑波山ゲートパークまで来ることは可能だろう。点で捉える考え方が自動車中心の街づくりの原因である。北部シャトルなど既存のルートを活用していけばいい。

●事務局：あとからでも思いついたことがあれば、メール等で御意見いただき、今後の計画策定につなげるようにしたい。筑波山ゲートパークを見学したためこの施設に対する意見などが多かったが、今後

様式第1号

は他の施策についても御意見や御指摘いただきたい。

・ その他

- 事務局：以上をもって令和5年度第1回自転車のまちつくば推進委員会を閉会とさせていただく。次回の委員会は12月を予定している。8月23日をもって今回一旦任期満了という形になるが、引き続き委員継続の承諾いただいているので、手続きについても改めて連絡させていただきたい。

以上